

東日本大震災
被災地支援活動報告書
【途中経過】

3.11



曹洞宗静岡県第二宗務所青年会
伊豆曹青

作成日 平成23年4月21日

1 | 伊豆曹青概要

1. 組織 曹洞宗静岡県第二宗務所青年会「伊豆曹青」
2. 構成 曹洞宗静岡県第二宗務所管内（静岡県三島市、熱海市以南の伊豆地方 165 か寺）寺院に籍を置く 50 歳未満の僧侶を会員とする
3. 会員数 約 50 名
4. 本会の目的 曹洞宗宗侶として研鑽、会員相互の親睦
5. 会長 平成 23 年 3 月 31 日まで 函南町明応寺住職 稲井弘純（いないこうじゅん）
平成 23 年 4 月 1 日より 伊豆市日輪寺住職 橋本昇祐（はしもとしょうゆう）

2 | 支援活動概要

1. 現地活動期間 平成 23 年 4 月 13 日～ 15 日
2. 現地活動拠点 宮城県石巻市湊 法山寺幼稚園避難所
3. 現地活動内容 仮設風呂設置・入浴支援
4. 現地活動人員 伊豆曹青会員ほか 10 名（男性 9 名、女性 1 名）

3 | 支援活動詳細

1) 経緯

3月11日、震災以降から、伊豆曹青では支援活動について執行部を中心に検討を重ねた。

震災直後の時点では伊豆曹青として現地での活動は、道路事情や燃料事情も悪く、また現地情報の不足する上、伊豆曹青は会としても、会員個人としてもボランティア活動の実績は少ないため、現時点で被災地での有用な活動を起こすことは難しいと判断し、当面の支援活動としては、震災直後から立ち上がった『曹洞宗義援金』への募金支援として、会員が春彼岸中各自の寺院・地域で募金活動をおこなえるよう簡単な募金キットを3月18日に郵送

した。

3月21日、上部団体である全国曹洞宗青年会より支援物資の要請があり、炊き出しセット（灯油バーナーや調理器具、調味料）、水害清掃用具（スコップ、一輪車、ケルヒャー高圧洗浄機）など約20万円分を伊豆曹青で購入。佐川急便福島中継センターに発送した。

3月24日、東北自動車道が一般車両の通行が可能になったのに伴い、3月28日より会員個人として伊豆市自得院住職山本師、伊豆の国市長伝院内野澤師がボランティア活動の為に現地入りした。伊豆曹青としても会員に物

資の提供を呼びかけ、保存食・調味料をなどの支援物資を山本・野澤両師に託して宮城県石巻市渡波町・宮殿寺にお届けした。また、両師は石巻専修大学に設置された石巻市ボランティアセンターに登録し活動。車内泊を続けながら、被災住宅の後片付けなどの活動をした。両師は3月31日帰着。活動を報告した。また、山本師は翌週4月4日に再び被災地に入り、気仙沼市に設置された国際NGO団体『シャントボランティア会（SVA）*』現地本部に支援活動車として、自得院所有のワゴン車1台を貸し出し翌日帰着した。

* SVAは曹洞宗ボランティア会を母体に創設された公益社団法人。

4月5日、伊豆曹青執行部で今後の支援活動について協議。山本・野澤両氏の報告を参考に、燃料状況も好転してきたことから、4月中旬に伊豆曹青として現地支援活動が出来ないか検討

を始めた。いまだ現地の情報は少なく、活動のニーズをつかみあぐねていたところ、稲井前会長の大本山總持寺修行時代の同期で、宮城県石巻市湊・法山寺副住職の北村暁秀（きたむらぎようしゅう）師と連絡が付くようになり（4日頃、石巻市湊で携帯電話が復旧）話

を伺ったところ、法山寺に併設された法山寺幼稚園が避難所となり、また、被災から3週間以上経過しても水道が復旧せず、まだ風呂に1度しか入っていないということを伺う。

そこで、入浴支援の形で現地活動が出来ないか検討することとなった。

2) 準備活動

4月5日、手探りから入浴支援の方法について検討を始めた。まず、伊豆地方の農地でよくみかける大きなポリタンクを入手すれば、伊豆からさしあたり必要な水を提供できる。また、入浴に必要なお湯を沸かすには、現地の燃料事情、電源事情が不透明なことから、ドラム缶と薪で湧かさなければならぬ。また、風呂に十分な湯量を確保できる見通しが無いので、アウトドア用簡易シャワーでの提供が妥当だと判断した。

まず、500リットル以上のポリタンク、200リットルのドラム缶を確保できるかが、この活動を展開できるかどうかの分岐点となった。また、仮設浴場としてテントのような設備が必要である。これらの資材の手配から準備は始まった。

まず、JA三島函南で理事をお勤めの明応寺（稲井前会長住職地）総代・柿島様および橋本現会長の友人で地元鳶職の牛腸組（ごちょうぐみ）様にもポリタンクとドラム缶入手を依頼した。

4月6日、JA三島函南より500リットルのポリタンク購入手配完了。また牛腸組様より同じく500リットルのポリタンク貸し出し、およびドラム缶3本購入手配をいただく。また、近隣のホームセンターでテントや簡易シャワーなど、その他の必要資材の目処を付ける。この時点で入浴支援の主な資材がそろい、支援活動の実施を決

定。

また、海外での支援活動経験のある近隣御住職より、その場限りでなく継続的な支援が出来るようアドバイスを頂く。当会の現地活動以降も、避難所の皆さんで入浴が続けられるように当面の間、仮設風呂の設備を現地に提供できるように準備を進める。

また、伊豆から持って行く水は、温泉水を利用できないか検討。古奈温泉の旅館あびすや社長山口和広様を通して伊豆長岡温泉組合様に打診したところ、1トンの温泉水の提供を快諾して頂く。なお、温泉水を使い果たした後は、石巻近郊にある豊富な水量の湧水地（太郎坊清水）で取水、避難所に輸送する体制を想定したが、震災後も変わらず水量があるか一抹の不安。

4月8日、品薄であった携帯可能な電気式風呂簡易保温濾過循環装置が2台手配出来たため、シャワーだけでなく風呂での提供を決定。午後、ポリタンク、ドラム缶が事務局（伊豆市自得院）に到着。即日活動リハーサルを実施。ワークフロー（湯沸かし用ドラム缶1基から入浴用ドラム缶2基にお湯をポンプ移送）と課題を確認。入浴後減る風呂水にたいして供給が追いつくか、また、ドラム缶では子どもやお年寄りなどが入りにくいなどが課題。輸送用レンタカー（2トントラックアルミバン、1トントラック平台）を手配完了。また、会員を中心に物資提供を求めることとする。4月9日、会員

に対して、メールにて現地活動スタッフおよび活動物資、支援物資と活動基金を募集。募集した物資は

◆物資提供

- ・タオル・バスタオル（新品またはなるべく新品に近いもの）
- ・ボディーソープ（新品未開封）
- ・ミネラルウォーター（段ボール単位で）

◆物資提供または貸し出し

- ・ガソリン携行缶（10リットル以上）
- ・ドラム缶（サビのない綺麗なもの、油分の残っていないもので200リットルくらい）
- ・エンジン発電機

輸送に限界もあり、法山寺様からはその他の物資は概ね足りているという情報であったため、その他の物資提供はご遠慮頂いた。

また、石巻市は上水道が復旧していない地域が多いものの、浄水場は稼働中で給水活動に利用されているという情報。入浴支援のために給水できるか掛け合うこととする。

以前、伊豆市最勝院御住職で曹洞宗宗務庁の坂野総務部長より、宗務庁の負担にてボランティア保険に加入できると伺っていたので、静岡県第二宗務所に問い合わせ。宗務庁に確認して頂く。

また、当初、薪は現地の廃材を利用する計画でいたが、被災者の立場でない我々が利用するのは難しいかもしれ

ないという判断から、伊豆から薪を持って行くこととした。橋本現会長が自坊に備蓄していた薪や稲井前会長の知人である大工さんから廃材を頂き、十分な量の薪を手配。また大工さんには湯沸かし用ドラム缶のフタを作ってもらったりもした。

また、ドラム缶 2 缶も追加手配ができ、湯沸かしはドラム缶 3 缶体制で行えることとなった。

4月11日までに現地活動参加者決定。会員 8 名、会員外僧侶 1 名（神奈川第 1 宗務所小西師）、また入浴支援ということで女性スタッフが必要との判断から、従来から伊豆曹青メンバーと親交のある、三島市で広告・イベント企画会社を起業し、NPOでの活動経験もある川村結里子氏に同行を依頼したところ快諾を得、合計 10 名の参加となる。また、被災地周辺でも宿泊施設が営業再開をして、復興支援者や被災者へ宿泊を提供し始めていた。伊豆曹青では石巻市から 30 キロほど離れた松島町の瑞巖寺近くにある旅館・大松荘さんをお願いをして 10 名分の宿泊場所を確保することが出来た。車内泊やテント泊を覚悟しての活動準備であったが、現地支援活動参加

者の健康管理面から宿泊地の確保は懸案事項であった。

4月12日、支援活動拠点所在地の宮城県宗務所を通して曹洞宗負担のボランティア保険に加入。しかし、地元伊豆市の社会福祉協議会から加入するボランティア保険の方がより厚い保障があるということが判明し、伊豆曹青負担により全国社会福祉協議会ボランティア保険に加入し直すこととした。1年間有効で年間保険料は一人あたり 720 円。さらに、伊豆市に緊急支援物資輸送車両の申請をし、認可を得る。これにより、高速道路の通行料金が無料となった。

12日午後、伊豆長岡温泉組合様を訪問し、源泉より 1.1 トン（500 リットルタンク 1 基、300 リットルタンク 2 基）の温泉水の提供を受ける。

ほかに、支援活動参加者の飲料水として、300 リットルタンク 1 基分の水道水を準備。また、活動期間中、法山寺から約 3 キロの石巻市蛇田浄水場で給水可能との連絡を頂く。

また、ガソリン携行缶も十分な数が集まり、燃料も万全の体制が整う。食料も万々に備え、5 日分相当を準備。

発案から 1 週間。それぞれの縁により、またそれぞれの得意分野で尽力、また現地支援活動参加者以外の会員の物資および基金の提供により、当初の計画を超えた万全の体制で準備が整った。

12 日夕方、輸送車両への積み込みが終了し、出発準備が完了した。



上：伊豆長岡温泉事業協同組合
左：組合職員のご協力により温泉水をタンクに給水
下：寄せられた支援物資



3) 活動日程

4月13日

- 午前3時30分 伊豆市自得院（青年会事務局）集合・出発
午前4時 三島市常林寺集合出発
午前4時30分 東名沼津 I C
東名高速→3号線→池尻 J C T→中央環状線→5号線
午前6時30分 川口 J C T・佐野 S A（朝食・給油）
東北自動車道
午前9時30分 安達太良 S A（給油）
午前11時30分 国見 S A（昼食各自）仙台南 I C
仙台南部道路→仙台若林 J C T→仙台東部道路→利府 J C T→仙台松島道路・三陸自動車道
午後0時30分 石巻港 I C
午後1時 石巻港周辺視察
仮埋葬場、門脇小付近
午後1時30分 法山寺幼稚園駐車場到着
物資搬入、仮設風呂設置準備
午後2時30分 仮設風呂設営完了、開場
午後6時 仮設風呂休止、後片付け
避難所にて軽食をいただく。避難者のお話を聞く。
午後7時30分 法山寺出発
石巻河南 I C→三陸自動車道→松島海岸 I C
午後8時30分 松島町 大松荘到着
入浴・夕食（レトルト食品）・打ち合わせ・就寝

4月14日

- 午前6時30分 稲井前会長、夜行バスにて利府役場に到着、送迎、大松荘合流
午前7時 朝食、持参した食材でサンドイッチ
午前7時45分 大松荘出発
松島海岸 I C→三陸自動車道→石巻港 I C、石巻港経由
午前9時30分 法山寺幼稚園駐車場到着
風呂準備
午前10時30分 仮設風呂開場
待合所に行茶準備
昼食駐車場にて（レトルト食品）
午後3時 法山寺副住職の案内により、宮殿寺様訪問（4名、残り6名は引き続き風呂支援）、女川町視察
午後5時 法山寺幼稚園園庭にて、震災犠牲者三十五日忌供養法要
導師法山寺御住職、避難者、伊豆曹青参加
午後6時 仮設風呂継続しながら夕食、駐車場にて（持参した食材にて鍋）
午後8時 仮設風呂休止、後片付け
午後8時30分 法山寺出発
石巻河南 I C→三陸自動車道→松島海岸 I C
午後9時30分 松島町 大松荘到着
入浴・打ち合わせ・就寝

4月15日

午前7時 朝食、持参した食材でサンドイッチ
午前8時 大松荘出発
松島海岸 I C → 三陸自動車道 → 石巻港 I C、石巻港経由
午前9時30分 法山寺幼稚園駐車場到着
撤収、持ち帰り資材積み込み
午前10時 6名女川町視察
午前11時30分 積み込み完了、法山寺幼稚園駐車場出発
石巻河南 I C → 三陸自動車道、仙台松島道路 → 利府 J C T → 仙台南部道路
午後1時30分 仙台南 I C、仙台市内にて昼食
仙台南 I C → 東北自動車道
午後3時 安達太良 S A (給油)
午後5時30分 佐野 S A (給油)、川口 J C T
5号線 → 中央環状線 → 池尻 J C T → 3号線 → 東名高速
午後8時30分 海老名 S A (夕食)
午後11時 三島市常林寺 荷物詰め替え作業
午後12時 伊豆市自得院 解散

4) 支援物資・活動物資

伊豆曹青携行物資

給水用ポリタンク 500L × 1 【購入】、同 300L × 2 【購入】
給水用ポリタンク 300L × 1 【借用】
ドラム缶 200L × 5 【購入】
テント (3m × 3m × 高 1.9m) × 2 【購入】
テント用ペグ・ハンマー 【購入】
手動加圧式簡易シャワー × 4 【購入】
25cc エンジンポンプ、給排水ホースセット × 2 【購入、借用】
ドラム缶浴槽用脚立 × 2 【購入】
簡易組立式浴槽【製作者者による無料長期借用】
入浴用品 (収納ボックス、桶、椅子、人工芝など) 【購入】
湯沸釜設置用コンクリU字構【購入・寄贈】
薪 (約 1 トン車 1 台分) 【寄贈】、エンジンチェーンソー【借用】
なた、斧【借用】、電気式保温循環装置 × 2 【寄贈】
タオル・バスタオル多数【寄贈】
シャンプー、リンス・ボディソープ多数【寄贈】
構造用合板 (サブロク) 8 枚【寄贈・借用】
2 トントラックアルミバン【レンタカー】
1 トントラック平台【レンタカー】
ワゴン (エスティマ) 【借用】、ミニバン (MPV) 【借用】
ガソリン携行缶約 200L 分【借用】、ガソリン、軽油【購入】
ミネラルウォーター (4 箱) 【寄贈】
ペットボトルお茶 (10 箱) 【寄贈】
子供用おもちゃ多数【寄贈】

参加者食料 5 日分相当【購入】
救急箱【借用】
鍋、やかん、ポット【借用】
カセットコンロ、燃料【借用】
ホワイトガソリンバーナー、燃料【借用】
ガストーチ【借用】
紙皿、紙コップ、割り箸【寄贈】
行茶用お茶、お菓子【寄贈】

参加者携行品

作業服 (防寒、防水対応)
軍手、革手
安全靴、長靴
着替え
タオル、洗面具
懐中電灯、電池
ヘルメット
保険証カード
非常用にお菓子
非常用に毛布、寝袋など

申請関係

災害支援物資搬送車両指定 (伊豆市、これにより高速道路が無料通行可能。)
ボランティア保険 (全国社会福祉協議会、伊豆市社会福祉協議会)

5) 現地状況・活動報告

行程往路

出発当日、4月13日早朝までには、伊豆をはじめ東電管内を騒がせていた計画停電も収束を見て、伊豆では新聞、テレビなどで震災関係・原発事故関係の報道が繰り返される以外は、日常を取り戻しつつあった。

そんななかの行程もまた、首都高速までは日常と変わらない様子であったが、東北道に入った頃から緊急車両、支援車両が目立ってきた。そして、福島県郡山市に近い安達太良SAに到着。駐車車両は自衛隊車両が多くを占める。ここは、福島第一原発から50キロと離れていない最前線だ。伊豆青参加者も一気に緊張感が高まる。また、高速道路ものり面の崩落修理跡や

道路上の段差が増えてきて、乗用車で難なく乗り越えられるものの、トラックは段差のたびに減速を余儀なくされる。しかし、世界中で賞賛を浴びた高速道路の復旧の早さを実感する。沿線の住宅も瓦屋根の一部損壊など見られる程度で大きな被害は見あたらない。しかし、仙台近郊に入り、仙台南部道路を名取川沿いに下流方向へ進んでいくと、状況は一変する。名取川は津波が遡上してきた川である。高速道路の高架上から見える周辺の広大な田畑には、自動車や漂流物が散乱しており、津波の被害を初めて目の当たりすることとなった。津波の被害を免れた民家は、地震では大きな被害を受

けていないのがわかる。行程をすすめ三陸自動車道にはいるとさらに道路の段差が頻繁にかつ激しくなる。片側1車線に減ったこともあり、上下線とも混雑している。ほとんどが緊急支援車両である。なお、この前の週末では、野次馬も増えて大混雑したという報道もあった。三陸自動車道は山間をぬっているため津波の被害は免れており、道路上からは津波被害の様子は見て取れなくなっていた。法山寺様からは最寄りの石巻河南IC周辺は渋滞が起きているので、手前の石巻港ICでおりて待ちあわせ、石巻港沿いに法山寺まで誘導すると連絡を受ける。

石巻市上釜ふれあい広場サッカー場

石巻到着

石巻港ICを降りて取り付け道路を少し走ると、すぐに、道ばたに泥だらけのトレーラーが横たわっていた。名取川沿いの高速道路から遠巻きに見えた津波の被害を、ここではじめて目の前に等身大で実感する。同乗者もあまり言葉がない。テレビで見えていたとはいえ、なかなか理解しがたい光景である。信号はほとんど点灯しておらず、他県の警察官が、手旗信号で交通整理していた。天気は良く、気温20度近く。かなり埃っぽく、黄砂が到来したときのようにかすんでいる。外にいるときはマスクが手放せない。

そして、法山寺・北村暁秀師との待ち合わせ場所、石巻市営のサッカーグラウンドに到着し合流するが、すでにピッチの姿はなく、ショベルカーにより地面が掘り起こされている。ここは石巻の仮埋葬場つまり土葬の場となった場所だと説明された。



亡くなった方のご供養の状況

北村師によれば、4月13日現在、石巻市では震災・津波で亡くなった方の火葬は受け付けておらず、①仮埋葬で土葬し、時期は未定だが後に火葬する②遺族の自己負担で他市町村あるいは他県の火葬場にて荼毘に付す。この場合手配も遺族自らでしなければならぬ③東京都が600名分の火葬を受け入れたのにあたり、希望者は申し込むことができるが、ご遺体はトラックでの共同移送。出棺時(トラック出発時)、

東京での火葬時に遺族は立ち会うことは出来ず、霊骨となって帰ってきたときにはじめて再会できるという条件が付くという3つの方法しかないという大変厳しい状況であるとのこと。すでに13日迄に別の場所で600名の仮埋葬が済んで、このサッカー場跡には1000名の仮埋葬をする予定だという。北村師をはじめ、市内の僧侶が協力して埋葬に毎日立ち会っている。



石巻市立門脇小学校付近



上：石巻市立門脇小学校付近

右：日本製紙石巻工場・JR貨物石巻駅付近

下左：石巻魚市場付近で営業再開していたガソリンスタンド

下右：魚市場付近の被災した大型店舗



石巻港周辺、法山寺まで

渋滞している石巻河南IC周辺を迂回するために石巻港周辺から湊地区に向かう。

しばらく行くと、工業地帯と住宅地が混在する地域となるが、そのひとつ門脇地区は石巻でも最も被害の大きな地域だと言うことである。津波で住宅がほとんど流された上に、流出した油により火災が発生し、町全体が灰燼と化した。門脇小学校も全焼したが、その裏の丘の上の住宅地は被害を免れ、すでに被災者も自宅で生活を始めている様子があった。同じ石巻市内でも通りを挟んでまったく状況が違うということ市内の至る所で見かけた。

宮城県第二の工業地帯である石巻港も潰滅と言える津波の被害を受けていた。そのなかで、一件、段ボールの看板を掲げ営業を再開しているガソリンスタンドが印象的であった。

法山寺幼稚園避難所

被害の大きかった石巻港周辺の地域から山側に入り、女川街道という国道をぬけ湊地区に入ると住宅は流出せずのこされているものが多い。しかし、ほとんどが1階部分は浸水している状況で、生活を再開出来ていないところが多いようだった。



法山寺様は街道から少し山に入ったところにあり、津波の被害は免れた。3月11日には周辺から多くの被災者



が集まった。津波で体が濡れている上、夜には大雪となった。500人以上の方々が法山寺幼稚園の園舎、園庭に身を寄せた。お寺ではありっただけの灯油ストーブを点けたがそれも足りず、渡り廊下などを薪にして、焚き火で暖を採り不安な一夜を明かしたそうであ

る。その後、海水が引き、少しずつ避難者は自宅に戻っていき、4月13日現在50数名の避難者が法山寺幼稚園で避難生活を続けていた。



上左：女川街道(R398)から住宅地へ 上右：法山寺参道入口
下左：法山寺山門、右手が法山寺幼稚園 下右：法山寺幼稚園園庭(避難所)

被災者からの話

避難所では、従前の情報通り食料などの物資は十分に行き渡っているようであった。

また、避難所のリーダーが建築土木関係の仕事をしている関係で、早くから自動車、燃料の手配が出来たようだった。すでに、リーダーのもと、避難所に生活する男性たちはがれき除去の仕事を得て、日中は仕事に出掛けている方が多かった。

電気は回復していたものの、余震のたびに停電が起こるとのこと。回復したものが再び失われるのが避難者に

とって一番不安なことだと聞かせてくれた。そのため、夜間は常に発電機で園庭を照明で照らしていた。また、石巻市内でも空き巣などが多くあるとのことで、避難所の安全確保の上でも電気は欠かせないのであろう。

ライフラインの中で水道だけが復旧していないので、風呂の提供、多量の水を確保しておけるタンクの提供は大変有り難いということだった。風呂はなにより、ほっとするのだと。

いろいろな被災者からのお話を伺う中で、必ずとっていいほど、『あの

とき、ああしてなければ私はいまここにいない』『こうしていたら、死んでいただろう』ということを知った。車で行かず走っていったから助かった。渋滞し始めたときすぐ裏道に入ったから助かった。津波の中、LPガスのボンベが周囲でいくつも爆発をする音を聞きながら何かにつかまっていた・・・そう話すことで自らが生きていることを確認し、凄惨な状況下を生き抜いてきたことのバランスをとっているようにも感じられた。



仮設風呂設営

13時30分。到着後、即、仮設風呂設営作業に移る。2トン車、1トン車、ワゴン車2台から積み荷をすべて降ろす。前日積み込み時には2時間ほどかけて積んだ積み荷も10分程度で全て降ろすことが出来た。

テントを張り、入浴用の簡易浴槽およびドラム缶を設置する風呂設営班と、ドラム缶と薪により湯を沸かす湯沸かし班、支援物資の仕分けを行う物資班に分かれ作業を始めた。

支援物資は主に飲料水と入浴用のタオル、ボディークリーム、シャンプーなどで、飲料水は駐車場上の避難所となっている園舎に運び、入浴用品は設営した仮設風呂に備え付ける。また、風呂設営班、湯沸かし班とともに事前に行っていたためスムーズに作業が進む。

コンクリブロックとドラム缶で3基の湯沸かし釜をたちあげ、トラックに設置してあるタンクから湯沸かし釜に温泉水をポンプで移送。ポンプは1分間に100リットルの揚水能力があるので、移送もスムーズである。この間に仮設風呂の設営も完了。しかし、ドラム缶1缶あたり200リットルの水量では、簡単には風呂の適温までは上がらない。いつも何気なく入る、

ボタン一つ自動でたまる風呂の贅沢さを実感する。それでも、万端に準備した薪は順調に燃え、また、大工さん特製の釜蓋のおかげで、リハーサル時より早い、約40分で45℃まで湯温を上げることが出来た。ふたたび温めた温泉水をポンプで浴槽に移送し、設営開始から1時間後の14時30分に入浴準備が完了した。



上：滋賀県長浜市の介護用品製造販売の株式会社サックフルハート様から無料貸出いただいた簡易浴槽



入浴実施 第1日目

仮設風呂設置完了し、お湯も満たされた。仮設風呂の概要は以下の通り

テント1張りずつをそれぞれ『男湯』『女湯』とする。ただし、運用は弾力的に行い、片方使用されていないときは男女にかかわらず入ってもらうようにする。男湯：ドラム缶風呂1基／女湯：ドラム缶風呂1基、簡易浴槽1基／それぞれの浴槽に150リットル弱のお湯を満たし湯温を42～3度に調整する。なお、事前にレジオネラ菌などの対策を検討。情報収集し、さらに伊豆長岡温泉組合の方にも相談した結果、温泉源泉や水道水を使用した循環式でない数時間でお湯を交換するようなお風呂では心配いらぬとのことだった。やはり、温泉水は薬品などを添加せずそのまま楽しんでもらいたい。

洗髪洗身用に手動圧力式の簡易シャワー（8リットル）・すのこ・合板の上に人工芝・脱衣箱・バスタオル・フェイスタオル・ボディソープ・シャンプーをテント付近・内に設置。

簡易シャワーは、ポンベ型のタンクに水を入れ、そこに自転車の空気入れのようにポンピングし加圧すると、数分間は水道のシャワーのように水が出るというもの。これを4台準備して、一人に一台お湯を満たし加圧した上でお渡しし使ってもらった。

おひとり10分から15分程度の入

浴。家族などは男湯で2名、女湯で3名は同時入浴可能。子ども連れの方はあればそれ以上でも大丈夫だった。

約5分の入れ替え中にバケツで新しいお湯を足し、シャワータンクの準備、浴槽のよごれすくい、床清掃を実施。

当所、入れ替え中の保温、お湯の浄化で使用する予定だった電気式の保温循環装置は、気温も高く想定よりも湯温が下がらない上、ドラム缶釜が予定の1基から3基に増え新鮮なお湯が十分な量供給できることとなり、今回の支援中は使用しなかった。今後、避難者の皆さんの手により風呂を準備するときに使用してもらうこととした。

準備中からすでに、子どもたちが仮設風呂の廻りに集まって歓声を上げ始めていた。14時30分の開設時、まずは子どもたちからまともに入ってもらうこととなった。小学校中学年以上のこどもは自分たちで、低学年の子どもは今年高校進学が決まったという少年と一緒にもらった。そくそくと入浴希望者が訪れるので、時間を定めて予約を取ることにした。

入浴が進むなか、伊豆から持参した1.1トンの温泉水はすべて釜に移送したので、法山寺から3キロほど離れた石巻市蛇田浄水場にトラックで給水に出掛けた。蛇田は湊地区から石巻バイパスでトンネルを抜けて石巻駅付近

を通過し石巻河南IC方面へと向かう途中の旧北上川沿いにある。3キロなので10分ほどで到着できると思いが発したが、市街地へは大渋滞。50分ほどかかって到着する。石巻駅周辺の繁華街は海岸から1.5キロほど離れているが、旧北上川を逆流したと思われる津波の流れにより大きな被害を受けていた。蛇田浄水場は蛇行した川の川上にあつたためか津波の被害は受けていないようだった。蛇田浄水場に到着すると米軍の大型給水車と一関市の給水車が給水を受けていた。その次にすぐに給水を受ける。帰り道に石ノ森章太郎の記念館で、津波を受けたものの建物が残った石ノ森萬画館を見た。萬画（漫画）の街として町おこしをしてきた石巻の復興のシンボルとなつてほしい。第1日目のこの日は、約30名の方々に入浴頂いた。

18時に作業終了し、その後、避難所で運転者以外はお酒も勧めてもらいながら被災者の方々のお話を聞く。

19時30分頃松島に向かう。松島町は松島湾をかこむ島々が防波堤となつて大きな津波の被害を免れ震災での死者・行方不明者も町内で被害にあつたのは3名にとどまっている。宿や土産物屋も再開されているところが多かつた。三陸道は渋滞気味。20時半頃寄宿し風呂、食事、打ち合わせの就寝し、活動を終了をした。



下：石巻市蛇田浄水場で給水を受ける



下：中央のドームが石ノ森萬画館



入浴実施 第2日目・撤収

前会長が夜行バスにて早朝に合流。松島を7時45分に出発。松島からは支援車両で渋滞。石巻港経由で9時30分頃法山寺幼稚園避難所に到着。

2日目は仕事に出掛けた方にも入って頂けるよう、20時頃まで活動することとした。また、お風呂を待っている方には、静岡茶など提供。話を聞きながら飲んでもらった。昨日ほど入浴も混雑していないので子どもたちとお絵かきや野球で遊んだりもする。午後には同じ市内の宮殿寺様を訪問。副住職様は昨年御詠歌の指導のために伊豆各地を巡回して下さった方だ。宮殿寺様は津波が通過したものの建物の流出倒壊は免れたが床上浸水。また液状



化現象のため墓地のお墓はほとんど倒壊している上、中には車が流れ着いていた。

17時より避難所の皆さんの希望により法山寺御住職導師のもと、五七日忌(35日目)法要をとともに営む。地震津波で亡くなった方々へ読経供養させてもらったことは、私達にとっても有り難いことだった。夕食は駐車場で持参した食材により鍋を作る。避難所のリーダーから石巻で買ったという刺身を差し入れて頂く。避難所に生ものが来たのは初めてだという。感慨深く



刺身を頂きながら話を伺う。

21時に法山寺避難所を出発。松島へ向かう。

翌日は9時半に法山寺幼稚園避難所に到着。この日は撤収作業のみ。簡易風呂・タンク・ドラム缶・ポンプなど今後も風呂がたてられるよう資材は当面の間避難所に置いていく。

お別れを申し上げ、12時過ぎ出発。車で10分の石巻河南IC周辺は郊外型大型店が並ぶ。イオンモールやヤマダ電機、ユニクロなども営業を再開していた。三陸道から一路伊豆を目指す。

5) まとめ

避難所では、避難者同士や行政との間でさまざまな摩擦もあったと避難者の方から聞いた。その中で、法山寺御住職様・副住職様・寺族様は避難所を提供しながらその調整に奔走されたという。まず法山寺の皆様には深い敬意を表したい。

支援活動の課題は、被災者ニーズとのマッチングである。ボランティアセンターでもマッチングに大変な労力をさかなければならぬと報道されている。今回はたまたま直接、避難所である法山寺様と綿密に打ち合わせができ、ニーズにわずかでも応えることが出来た。

また、法山寺副住職様も途中訪問した宮殿寺副住職様も、何より遠くからこうして顔を見せてくれたことが一番うれしいと仰っていた。人のつながりを感じることは確実に力になる。風呂というのも人間特有の生活活動、人間らしさの顕れだと思う。一日も早く人のつながりとその力によって、被災地の人間らしい生活が戻ることを祈念する。

また、ボランティア活動は継続性も求められるといわれている。資材提供により、避難所の長期的な入浴支援を果たせたものの、伊豆からの距離のため、継続的に支援人材を投入することが難しい。東日本大震災被災者支援は長期となることが予想される。伊豆曹青としては活動のあり方をさらに検討し、これからも続けて行きたいと思う。

4 | 活動参加者・支援者一覧

支援者・支援企業

- 【温泉提供】伊豆長岡温泉事業協同組合様・あびすや社長山口和拡様
- 【簡易風呂提供】滋賀県長浜市(株)サンクフルハート様
- 【資材調達】伊豆市 牛腸組様・JA三島函南理事 柿島直人様
- 【行政支援】曹洞宗静岡県第二宗務所・宮城県宗務所・伊豆市役所・伊豆市社会福祉協議会
- 【資材提供】山田建築 山田剛様・パッケージプラザカトウ様
- 【支援活動基金】伊豆市昌徳院様・伊豆市泉龍寺様・函南町高源寺様・熱海市長谷寺様・伊豆市永徳寺様・伊豆の国市真珠院様・静岡市龍興寺様・函南町法輪寺様・伊豆の国市長温寺様・伊豆の国市長楽寺様・伊豆の国市昌溪院様・伊豆の国市成願寺様・伊豆の国市常雲寺様・常雲寺副住職様・伊豆の国市長源寺様・伊豆の国市蔵春院様・伊豆の国市天寿院様・伊東市大江院副住職様・三島市耕月寺様・第二宗務所第8教区様
- 【支援物資提供】東伊豆町三養院副住職様・伊東市光源院副住職様・伊豆市修禅寺様 松永陽平様
- 【支援物資提供(川村氏扱)】井上さま・三澤さま・英さま・齋藤さま・ふなとさま・太田さま・辻さま・吉川さま・abbyさま・山本さま

(23年4月24日現在。支援活動基金、支援物資提供は提供順、活動参加者は除く)

現地活動参加者

- 【伊豆曹青会員】
 - 山田益広 伊豆市天桂寺副住職
 - 鈴木幹宏 伊豆市昌徳院副住職
 - 山本信英 三島市長泉寺住職
 - 高杉伸道 熱海市宝泉寺住職
 - 野澤聡明 伊豆の国市長伝院副住職
- 【特別参加】
 - 小西正純 平塚市普門院住職(神奈川県第1宗務所)
 - 川村結里子 株式会社結屋 代表取締役
- 【活動事務局】
 - 福井弘純 函南町明心寺住職 伊豆曹青前会長
 - 山田太志 三島市常林寺住職 伊豆曹青副会長
 - 山本真人 伊豆市自得院住職 伊豆曹青会計

後方支援

- 中村博隆 伊豆の国市常雲寺副住職
- 山田樊一 伊豆の国市蔵春院徒弟
- 【伊豆曹青支援活動本部】
 - 橋本昇祐 伊豆市日輪寺住職 伊豆曹青会長